



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 360
March
2023

トピックス

メンバー国との協力推進

《速報》アジア防災会議2022の開催

関係機関との協力推進

JICA課題別研修「総合防災」

ADRC客員研究員レポート

¶ アスガー・アリー・ジャマリ (パキスタン)

¶ プラビン・バグワントラオ・ダット (インド)

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
<https://www.adrc.asia>

© ADRC 2023

●メンバー国との協力推進

《速報》アジア防災会議2022の開催

2023年3月10日から12日にアジア防災会議2022 (ADRC2022) が宮城県仙台市の仙台国際センターで開催されました。今回は、メンバー国や関係者など幅広く参加が出来るよう、オンラインでも参加が可能なハイブリッド形式で対応されました。

2022年度のアジア防災会議では、「WHAT IS NEXT? -過去に学び、未来に備える-」と題して、国レベルの防災システムをさらに強化するために、過去の教訓をリスク情報に基づく備えの取組みに生かすことの重要性について議論されました。

セッション別のテーマとしては、1) 大規模災害とその対策、2) 仙台防災枠組の取組みにおけるデータ連携の拡大-Glide (Global Identifier Number) の利用促進、3) 衛星を活用した防災・危機管理情報の提供、の3つを取り上げ、各専門家からの報告や参加者との意見交換が行われました。また特別セッションとして、「関東大震災100年スペシャルセッション ~過去の災害からの教訓をどう生かすか~」を設け、都市圏における関東大震災からの復興の過程などが報告され、アジア地域におけるよりよい防災活動の提言が述べられました。

また関連イベントとして、内閣府主催のJIPAD (防災技術の海外展開に向けた官民連絡会) セミナーや、世界防災フォーラムにおけるJICA主催のセッション「仙台防災枠組の中間レビューに向けた成果と課題」にも参加者は出席しました。最後に、会議終了日には東日本大震災の被災地である名取市閑上地区へ視察を行いました。

各セッションの詳細な結果、会議当日の様子が確認できる動画サイトなどについては、次号でお知らせいたします。



ACDR2022の現地参加者

●関係機関との協力推進

JICA課題別研修「総合防災」

アジア防災センター（ADRC）は、2022年12月28日から2023年2月22日にかけて、JICA関西との協力により実施しました。研修は遠隔研修と来日研修によるハイブリッド形式で行われ、バングラデシュ、ブラジル、インドネシア、ネパール、スリランカ、タイの6か国から8名の防災担当行政官が参加しました。

本研修は、各国における災害対策を推進するために、地方防災計画案の策定および実践方法の習得を目指すものです。

研修員は講義や現地視察、地方防災計画

案策定の演習を通じて、対象都市の災害対策を検討しました。皆さん大変積極的にプログラムに参加し、参加者間で議論を交わし、理解を深めました。

本研修実施にあたり、ご協力いただいた各関係機関のご担当者、講師の皆様に厚く御礼申し上げます。



熊本県白川の洪水対策現場視察

●ADRC客員研究員レポート

アスガー・アリー・ジャマリ（パキスタン）

私はパキスタンのアスガー・アリー・ジャマリです。私は7年前からバロチスタン州歳入庁の州災害管理局で副局長（計画・調整担当）／（救助担当）を務めています。州災害管理局は、バロチスタン州内で起こるあらゆる種類の災害に対処する責任を負っています。

私は、2014年から2015年にかけて、バロチスタン大学において地理学の修士号を取得しました。現在の職責として、私は災害への備え、軽減、緊急時対応計画の策定、PC-I（プロジェクト計画書に基づく開発予算）の全範囲を的確に実施していくことが求められています。また、住民への啓発、災害に関する研修活動や、州全体の災害軽減のための関係者との調整も行っています。

現在、私はパキスタンの州・国家災害管理局の推薦により、日本の神戸で2ヶ月間実施される客員研究員プログラムに参加しており、緊急事態に迅速に対応し、人命や被害の損失を最小限に抑えるための最新の技術や方法について学んでいます。

日本は世界的に見ても災害や緊急事態への対応が進んでいる国なので、このプログラムに参加することによって、災害リスク管理・災害軽減に関する私の知識と能力を高めることができると期待しています。

さらに、災害前や災害後の災害リスクを軽減するために、日本の政策をパキスタンの政策と比較し、自国に適用する方法を検討することも、私としては期待している成果の一つです。

この場をお借りして、ADRC、パキスタン政府、バロチスタン州防災当局の皆様には、このプロ



続き

グラムへの参加をサポートしていただき、心から感謝申し上げます。

プラビン・バグワントラオ・ダット (インド)

ADRC客員研究員のプラビン・バグワントラオ・ダットと申します。インド内務省の組織である国家災害対応部隊（NDRF）の司令官補佐として働いています。私は農学部を卒業し、災害管理の修士課程を修了しています。

インドの国家災害対応部隊（NDRF）は、世界最大の災害対応専門部隊で、災害時の専門的な対応を担当するほか、災害管理訓練の提供や、国内のさまざまな能力開発・災害リスク軽減活動の実施も行っています。私は2020年6月に中央警察予備隊から出向でNDRFに入隊し、マハラシュトラ州プネにあるNDRFの第5大隊に配属されています。私はNDRFの中隊の総監督と管理を担当しています。また、マハラシュトラ州とゴア州で、さまざまな作戦、訓練、能力強化活動にも携わっています。私は、医療緊急対応、倒壊建造物の捜索・救助、水難対応、消防、動物災害対応、死体管理などさまざまな分野の訓練を受けた有資格の救助隊員で、山岳捜索・救助、化学生物学・放射線学・核緊急対応の専門訓練を受けています。さらに、戦略的マネジメント、INSARAG、災害管理におけるジェンダー問題などをテーマにしたコースも受講しています。

インドはアジア南部に位置し、パキスタン、アフガニスタン、中国、ネパール、ブータン、バングラデシュ、ミャンマーと国境を接しています。そのユニークな地理的気候条件と社会経済的条件から、インドは程度の差こそあれ、多くの自然災害や人為的な災害に見舞われてきました。洪水、干ばつ、サイクロン、地震、地すべり、雪崩、森林火災などに対して非常に脆弱です。また、地球温暖化や気候変動により、水文気象災害の発生や強度が増しています。また、事故のような人為的な災害も増加の一途をたどっています。そのため、インドでは災害リスクの軽減と災害管理への関心が高まってきています。

日本はその地理的、地形的、気象的条件から、台風、集中豪雨、豪雪、地震、火山、津波などの自然災害に頻繁に直面しています。日本では、防災体制の整備、国土保全の推進、気象予測技術の向上、災害情報通信システムの整備など、社会の災害対応力を向上させ、脆弱性を軽減してきたことにより、災害による被害は減少傾向にあります。したがって、日本から学ぶべきことは非常に多いと思います。

日本滞在中は、日本の災害管理システム、特に様々なレベルでの対応について見識を深めたいと考えています。このプログラムを通じて得た知識やスキルは、インドの関連分野で生かすことができると確信しています。

2022年度の客員研究員プログラムに参加する機会を与えてくださったADRCとインド政府に、心から感謝いたします。



問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。